



2019年（令和元年）12月20日発行

特定非営利活動法人

あきたスギッチファンド



TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

あきたスギッチファンド 通信 No.34

2019年度第2回理事会、第3回運営委員会の報告

今年度第2回理事会は、11月28日（木）、最近県北地域で助成金を交付した団体の活動の見学をメインに実施しました。併せて運営委員にも参加頂き、理事4人、運営委員5人、計9人の参加となりました。

見学箇所は、大館市大町の「わわわ de 子育てカフェ」と能代市元町の「市民プラザ」の2箇所。

「わわわ de 子育てカフェ」 “おおだて de 子育て” グループ（代表島田真紀子氏）が第21回本ファンド50万円を基に、10月に新しく親子で集える施設として開設しました。親子で利用、講座で利用、イベント利用など、多様に活用のできる施設です。木のおもちゃで遊べる木育ひろば、ゆったりした授乳室、ランチの提供など、いろいろ工夫されており、これまでの大館市には親子で集える場がないという悩みの解決に繋がることが期待されます。



正面入口



木育ひろば

「市民プラザ」 “NPO法人りあん”（理事長越後康一氏）と“市民おもしろ塾”（代表渡邊耕佑氏）から活動状況を伺いました。

“NPO法人りあん”は、能代市とその周辺都市を対象に、高齢世帯のごみだし、草刈り、雪かきなどの生活支援、さらに遠隔地の子世帯と秋田の親世帯をつなぎ心配ごとの相談に乗るなど、高齢社会の課題解決に取り組む団体です。第20回本ファンドの50万円助成で、団体の基盤整備とホームページの開設を行いました。その後間もなく能代市から駅前の“市民プラザ”の運営を受託しました。

理事会はここで開催し、市民の憩いの場に生まれ変わったプラザの様子も見学しながら話し合いました。

“市民おもしろ塾”は事務局長の川添能夫氏が出席し説明して下さいました。

塾は能代市の古希の高校同期の仲間6人で自主学習団体として2016年に立ち上げました。月2回のペースで歴史、町おこしなど多彩な講座を開催しています。

第18回本ファンドで「杉沢台縄文竪穴住居図と関連遺物展示と講演会・シンポの開催」に25.6万円を助成しました。また19回本ファンドでは、市民おもしろ塾が中心となって結成した実行委員会の映画まつりの開催に10万円を助成しました。活発な遺跡・遺物保存活動が契機となって、市民さらには市役所でも、能代市の文化財を見直す機運が高まっているということでした。



市民プラザ正面



話し合いの様子

あきたスギッチファンドの活動（8月～12月）

- 10月10日 第17回チャリティ・ゴルフコンペ in 椿台 於：秋田椿台カントリークラブ
10月26日 助成事業報告会（第18回、19回助成） 於：遊学舎
10月 1日～11月 1日 第22回本ファンド助成事業 募集
12月 1日 第22回本ファンド助成事業 審査会 於：遊学舎

★ スギッチファンドの12月20日現在の寄付金額は 1,634,651円です。
多くの皆様のご支援に感謝申し上げます。

今後の予定

1月13日（月 祝日）10:00～15:30

第9回スギっ子CUP キッズフットサル交流大会 於：秋田県立体育館
主催：一般財団法人秋田県総合公社県立体育館事務所
参加 24チーム

※あきたスギッチファンドは共催団体として、大会開催に協力することで、スギッチファンドへの理解と支援を頂きます。

2月 4日（火） 8:00～14:00

第9回チャリティグラウンド・ゴルフ大会 於：秋田県立中央公園内 スカイドーム
主催：認定NPO法人あきたスギッチファンド
参加費 一人1,000円 募集人数 250人

第22回本ファンド（2019年度第2回）助成事業決定

第22回の本ファンド募集は、10月1日～11月1日。同時に冠ファンド「秋田魁新報社 がんと生きるファンド」、「病児の支援活動を応援するファンド」の募集も行った。病児の支援活動は応募がなかった。審査委員は、下記の通り21回と同じ。秋田魁新報社の冠ファンドの審査については安宅委員に兼ねて頂いた。

渡邊 靖	秋田商工会議所 まちづくり推進課課長
三浦 美由紀	E n - L i n k 代表（北秋田市）
鎌田 晶子	秋田県企業活性化センター 秋田県よろず支援拠点コーディネーター
佐々木 美奈子	NPO法人いきいきFネット秋田 理事 秋田県男女共同参画センター センター長
安宅 英男	株式会社秋田魁新報社 総務局総務部部長
沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
須磨 武	秋田県あきた未来創造部 地域づくり推進課 地域協働推進班 主幹（兼）班長

12月1日（日）遊学舎での公開審査会は、応募団体が例年に比して少なかったため午後からの開催となった。佐々木委員は所用のため欠席。各団体のプレゼンテーションは、説明10分質疑応答5分で順調に進められた。審査員の選考検討協議では、満場一致で採択しようというものが少なく意見調整に時間がかかった。委員からはもっと企画に具体性をもたせ成果が上がるように事業を実施すること、地域を巻き込んだ取り組みをすることという要望が出された。

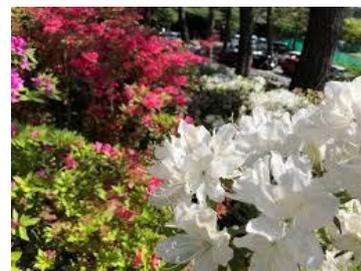
募集、応募、採択状況

助成額	募集件数	応募件数	採択件数
上限10万円助成	2	1	1
上限22万円助成			1
上限30万円助成	3	3	4
上限50万円助成	2	3	1
冠ファンド 秋田魁新報社がんと生きるファンド 上限10万円助成	1	1	1
冠ファンド 病児の支援活動 上限10万円助成	1	0	0
上限20万円助成	1	0	0

本ファンド

助成金10万円

団体名 能代公園立体造形展実行委員会（能代市）
事業名 能代公園立体造形展



5月に能代公園で行われる「能代公園おもしろ祭り」を挟む一週間の間に、公園内に立体造形物を10点程度展示する作品展を開催する。野外展示の実績のある芸術家や美術教諭たちで実行委員会を結成し、出展作品の募集から制作、現地での展示などの事業を進める。千人以上の見学を予想している。市民に芸術に触れ楽しむ機会を提供するとともに、能代公園の価値を高め、ひいては市の活性化、市民文化の振興に繋がっていききたい。

助成金 22 万円

団体名 マザーズコーチングスクール秋田（秋田市）
事業名 鏡の中のぼく動画上映会&作者講演会

馬場啓介著 絵本「鏡の中のぼく」は、コミュニケーションを学ぶ文化をつくり、孤独、争い、いじめをなくす、という著者のミッションを分かりやすく受け止めることのできる教材として、子育て中の世代に共感をもって活用されている。今回当団体では、「鏡の名のぼく」の動画の上映会と著者の講演会を開催する。この事業を通して、いじめ、自殺、孤独を生まない温かい社会づくりに貢献したい。

助成金 30 万円

団体名 つるし飾りの会（能代市）
事業名 てづくりフェスティバル IN のしろ



令和2年3月20日～22日に、てづくりフェスティバルを元町、畠町、上町の空き店舗を利用しながら開催する。つるし飾り、木工、エコクラフト、布小物等々、多くの手作り作家に声をかけて、多彩に展開したい。作家にとっては創作意欲を高める機会となる。また空き店舗の多いこの地域の商店街に賑わいを取り戻し、町の活性化に繋げるきっかけになることが期待される。

団体名 公立大学法人 国際教養大学秋田若者活性化委員会 FROM PROJECT 秋田（秋田市）
事業名 公立大学法人秋田若者活性化委員会 FROM PROJECT 秋田 第8期

FROM PROJECT（ふろぷろ）は、「社会に“Good Impact”を与える人材の輩出」を目的に、慶応義塾大学鈴木寛ゼミが発足させた団体。国際教養大学学生有志がこの趣旨に賛同しふろぷろ秋田を結成。平成28年度以来秋田県内の中高生を対象に課題発見力、地域問題解決力を養うための講座を開催している。今回は高校生を対象に7回の講座を実施し、2月の最終報告会でその成果を発表する。高校生が身近な課題に自分なりの方法で向き合い、解決のためにプロジェクトを立ち上げ、地域の人たちと繋がりながら進める。この事業を通して、高校生、地域双方が新たな知見を得られる機会となることを目指す。

団体名 秋田高専地域連携活性化同好会・米子高専食文化研究会合同チーム
事業名 きりたんぼの長さギネス世界記録を更新するイベントの実施



秋田県の伝統食品きりたんぼを地域活性化ツールにしたいと、秋田高専、米子高専の教員、学生有志が合同チームを結成。ギネス世界記録に対応する大きなきりたんぼを作る活動で県外・国外にPRし、地域に人が集まり産業が活性化する活動のきっかけとしたい。

事業の実施には、陽気な母さんの店や大館市の協力を得る。3月13日にきりたんぼ作りに挑戦し、ギネス認定員による審査・承認をうける。マスコミ、SNSで情報発信し、秋田県、大館市への注目を高める活動にする。

団体名 びーらぶ秋田（秋田市）
事業名 暴力被害女性支援者養成基礎講座等の開催

この会は、ドメスティックバイオレンスや虐待の被害当事者の心理的回復の支援を通して、人権尊重の意義を社会に浸透させ、暴力を選ばない社会を目指すことを目的として活動している。

今回は、専門家を講師に「暴力被害女性支援者養成基礎講座」（4日間）を開催する。暴力の影響や構造等の基礎的な知識と共に DV や虐待を受けた子どもや女性への支援を学ぶことを目的とする。ひとりでも多くの方が暴力について正しい知識を学ぶことで、地域社会の暴力に関する価値観を変えていきたい。

助成金 50 万円

団体名 羽後の嫁どり実行委員会（羽後町）
事業名 羽後の嫁どりモニター体験



羽後町の伝統行事「ゆきとぴあ七曲花嫁道中」は毎年1月に実施されるが、この行事に新たな価値を持たせたいという思いから、新しい「花嫁道中」をモニターという形で実施する。海外の人（台湾の人など）にモニターとして、羽後町の自然ゆたかな地区で古式ゆかしい結婚式と、郷土料理での祝宴を体験してもらう。この様子を写真や PR 動画撮影して、外国人を羽後町に呼び込むツールとし、日本に興味を持つ海外旅行代理店等に配信する。マスコミにも取材依頼して国内外に PR する。新しい「花嫁道中」の企画を通して、羽後町の古き良き伝統が若者に伝えられ、継承されていくことが期待される

冠ファンド 「秋田魁新報社 がんと生きるファンド」

助成金 10 万円

団体名 Third place AKITA（秋田市）
事業名 AYA 世代がん経験者へ“あなたはひとりじゃないよ”プロジェクト part2

AYA 世代とは、Adolescent and Young Adult の略で、15歳から30歳前後の思春期・若年成人を示している。AYA 世代のがんの罹患および死亡率は最も低く、これまでがん対策の対象とはなされていなかった。しかし、近年がん罹患年齢の若年化が進む中、就学・就労、将来への不安、ストレスなど、AYA 世代ならではの困難が問題となっている。

今年スギッチファンドの助成金を得て、10月～12月に3回 AYA 世代のがん患者が集うがんカフェを開催している。AYA 世代同士が集い、悩みを分かちあう場を作り、情報や思いを共有することで、前を向いて進めるきっかけを作ることができると考えている。それを継続して2月～7月に part 2 を開催したい。また代表たちが東北をはじめ全国の AYA 世代の患者グループと交流を広げていく。将来は活動を県内全域に広げることを視野にいれている。

事業報告会

10月26日（土）遊学舎に於いて、第18回・第19回助成事業報告会を開催した。

第18回助成事業：平成29年度第2回の助成で8団体、事業実施期間は29年12月2日から30年8月31日

第19回助成事業：平成30年度第1回の助成で13団体、事業実施期間は30年7月14日から31年2月10日

各団体が助成事業の成果をパネルにポスター展示。会場を廻りながらポスターの前で各団体から事業説明を受け、それに対して質疑を行った。どの団体のポスターも説明も力が籠っており、時間いっぱいの報告会となった。



あきたスギッチファンド寄付者一覧（2019年8月～12月）

※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

団体・企業等	株式会社福岡ドライクリーニング、 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、株式会社伊藤園秋田支店、 サントリービバレッジサービス㈱秋田支店、ダイドードリンコ株式会社、 秋田銀行地域未来戦略部、東北6県商工会議所女性会連合会、秋田県職員消費生協、 椿台ゴルフクラブ、スギッチ応援隊、日本らんちう会、横手フィオレンテ、桜風亭
個人	畑澤貴美子、土田重夫、菅原勝耕、富樫嘉津恵、藤原睦子、高堂裕